

## 玉野市立学校適正規模・適正配置検討委員会 第 1 回会議 会議録（概要）

■日 時 令和 4 年 7 月 13 日（水）15：00～17：00

■場 所 産業振興ビル 3 階 技術研修室

■出席者 ○委員 13 人

金川 舞貴子委員 中島 正人委員 木津 直美委員 森 幸絵委員 大内 雄一郎委員  
西宇 可奈子委員 兼松 勲委員 木村 俊一委員 栗林 太一郎委員 諏訪 祐子委員  
濱松 正江委員 三浦 康男委員 浅浪 康延委員

（欠席 2 人：今井 克則委員 近藤 奈々委員）

○事務局 5 人

玉野市教育長 妹尾 均 教育次長 小崎 隆 教育総務課長 山内 祐樹  
学校教育課長 的場 佳代 教育総務課課長補佐 清山 智保

■傍聴者 7 人

### 1 開会

事務局：要綱第 6 条第 2 項により、委員の半数以上が出席しているので、会議として成立することを報告する。

### 2 教育長あいさつ

教育長：全国的に人口減少が叫ばれている中、本市においても、ここ 40 年間で児童生徒数は、3 分の 1 にまで減少している。小学校では複式化、中学校では 1 学年 1 学級化することが想定されている。教育委員会では、児童生徒が適正規模の集団の中で、多様な考え方に触れ、認め合い、協力し、切磋琢磨しながら、それぞれの資質や能力を伸ばしていくことが大切であると考えている。これからも子どもたちが適切な教育環境の中で、伸び伸びと教育活動が行えるよう、様々な角度から意見をもらいたい。本日は、まずは現状や課題を共有してもらいたい。

### 3 委員・職員紹介

- ・委員及び職員の紹介（資料 1 委員名簿）
- ・委嘱状の交付は省略し、机上配布

### 4 委員長・副委員長選出

- ・要綱第 5 条第 2 項に基づき、委員の互選により、金川舞貴子委員が委員長に選出された。
- ・要綱第 5 条第 2 項に基づき、委員長の指名により、栗林太一郎委員が副委員長に指名された。

### 5 諮問

- ・教育長が「諮問書」を朗読し、金川委員長へ手渡した。

6 議事（要綱第6条第1項に基づき、金川委員長が議長となる。）

（1）市立学校の現状と課題について

事務局：資料に沿って説明（資料1～7）

副委員長：資料に沿って、中学校長会の要望書の内容を説明（資料9）

委員長：（要望書について）先生方が少規模のメリットを最大限生かす努力をされていることがわかると同時に、課題のリアルな部分を話してもらったと思う。全教科の先生を揃えるには1学年3学級くらい必要な中、置かれた状況、制限の中で学校経営をされているということであった。

事務局の説明にもあったが、草案に示されたプランの中のどれかに絞り込んでという話ではない。みなさんから色々な多角的な意見をもらいたいと思っている。統廃合という、どこを残すかという話になりがちだが、よりよい教育は何か、何を大事にしたいのかを忘れずに議論したいと思っている。こんなことをやっているとか、こんな良さは残したいなども含めて意見をいただきたい。

委員1：草案のプラン以外では、例えば、小中一貫校なども視野に入れて考えても良いと思った。

通学距離が小学生で4km（中学校は6km）以上が補助の検討の基準ということであったが、今の玉野市の人口を考えるとシータク・シーバスを有効に活用すればよいと考える。

委員長：玉野市では、小中一貫校はないのか。

事務局：小中一貫校はないが、中学校区一貫教育を進めている。

各中学校区で、就学前園から中学校まで一貫した教育を進めていこうという考えで取り組んでいる。

委員2：話を聞いているとちょっと重たいし、辛いというのが正直な気持ちだ。

人口も減るし、仕方がないと半ば諦めの気持ちで捉えた。そんな中でも、先生方が奮闘してくれているということを初めて知った。そういった話を私たちが中学校区に持ち帰って、しっかり説明できるように詳しく勉強できたらと思った。

長女が6年生だが、1クラス10人しかいない。友達と上手いかななくなった子が一時期学校に来れなくなったことがあり、やはりクラスの数は1学年2学級以上あればよいと思った。

委員長：それぞれに持ち帰って、ご意見をいただいて、また持ってきていただけるとよいと思う。

委員3：一番上の大学生の子が小学生のときは1クラス30人いた。一番下の、いま小学3年生の子のクラスは12人で、クラスの中のグループが作りづらくなっていると感じている。中学校で他の小学校と一緒にあって、相手方が元気すぎる場合や、こちらが大人しすぎる場合などに、やりづらい部分を感じたことがあった。子どもたちの逃げ道になるくらい的人数が欲しいと前から思っていた。

子どもが減る話ばかりで、玉野に人を呼ぼうとしないのかとってしまう。玉野で子育てをしようと思わせる何かがないのかと思う。

委員長：この先増える見込みのなさそうなデータを示すよりは、どこかで増やしていく、あるいはもっと魅力の部分を確認して、仮に廃校になって統合したとしても、

その良さを生かして行くような発想もできる。もっと生かしていきたい良さや、ここが売りだとかいった部分が出てくればと思うがどうか。

委員 4：もう少し玉野に人を呼ぶという考えはとても大事だと思う。統合で廃校になった地域は、地域社会に元気がなくなってくることが想像され、地域で支えていた祭りなどの文化的な行事なども廃れていく可能性がある。

文化的な面がなくなってくると魅力がなくなり、本当に何もない地域になる可能性があると思う。私が住んでいる地区でもいつどうなるか分からない状態だ。

また、学校がなくなると、避難場所や皆で集まる場がなくなるという問題がある。学校の部分だけ見ていくと玉野市全体としての別の問題が必ず出てくるので、学校の問題と同時に、地域社会をどう存続させるかを平行して考えないといけないと思う。

委員長：学校づくりは地域づくり、地域づくりは学校づくりというように、一体で進めていくのが今の日本全体の教育と地域の考え方なので、とても大事なことであるし、おそらく学校のコンテンツにも関わってくる。

防災の話も出た。地域における学校の役割といった視点で、広くご意見をいただきたい。

皆さんの中でも賛成反対両方の気持ちがあると思う。どちらからも、考えられるところを出していただいてもいいと思う。街の方たちも、同じような思いで揺れていると思う。

委員 5：人間関係の問題は大規模校でもあるが、クラス替えによって少し気持ちをリセットできている。その反面、9年間同じメンバーで過ごすことによって、高校を出てから少し弱い部分があると昔から言われていて、その部分は一つデメリットかなとは思いますが、毎年クラス替えがあるのは保護者としてはありがたい。

4 km以上の通学距離になるとスクールバスの活用が想定されている。今導入している地区のすべてが上手くいっているとは思わないが、導入にあたって現状を知ってもらうことも一つの方法かなと思う。

委員長：多様な規模、多様な人数の学校の現状があるのかなと思う。

委員 6：小規模校のメリット、デメリットはまさしくそのとおりでと思う。本校でも、子どもたちによりよい教育を提供するため様々話をしているが、教員の定員は学級数によって決まっているので、クラスが増えることは子どもたちにとっても、教員にとってもメリットがあると思っている。

他市で統廃合の地域説明会に何度も出たが、どうしても市の人口を増やしたり、もう少し教育施策を充実させたりといった話が出てくる。もうすぐ始まる地域説明会でそういう話が出てきたときに、事務局は答えが出せるのかなと、少し危惧している。

地域は、賛成の思いと、反対の思いと、いろいろ揺れ動いているところがある。適正規模化をぜひやるという考えの下に進めていると思うが、その思い、主張を、地域説明会でも出してほしいと思う。

事務局：適正規模化は、複式学級の解消だけではなく、ソフト面からもハード面からも、子どもたちの学びの環境を整えていくことが第一の目的であることを伝えていきたい。そのうえで色々考えはあろうかと思うが、子どもたちのことが一番という

スタンスは説明したい。

委員 7：昨年度から私の園は複式学級になった。複式だと、例えばドッジボールをするにも一つの学年では難しい。交流会などで近くの幼稚園や保育園の子どもたちと一緒に遊んだときには、大勢の中で、普段できない集団での経験や、集団遊びなどができる良さはあるのかなと思う。

中学校は教科ごとの免許になるので、小学校や幼稚園はどの学年でも見られるけれども、その辺りがまた違ってくるのかなと思う。

私の園の地区は、地域の方に支えられていると普段から感じている。地域の方の力を借りて、いろいろ経験させていただいていること、それは今後も引き続き教育の方に取り入れてもらえたらと思うので、そのつながりが切れないようにと感じている。

委員 長：学校教育をしていくうえで、玉野市は地域との関わりが強いのか。

委員 4：私は地元企業に勤めているが、地元の認定こども園の子どもたちが、勤労感謝の日に合わせて工場に来てくれて、プレゼントをくれる。その帰りに工場を少し見学してもらおう。それはずっと前の園長先生から、少しでも小さいときに経験をさせておきたいという要望があって始めたものだ。

そのほか、玉野は塩づくりが長い間盛んであったことから、地元の小学生が地域の学習に来ている。地区と学校との関わりというのは、私の周りでは大変深いと思っている。それが子どもたちに与える色々な影響もあると思っている。

委員 長：今は学区の地域なのが、統合によって関わる地域が複数になる。その辺りも大事に考えていかなければならない。大事に残していきたいものを、上手く残すことを考えないといけないと思う。

委員 8：2年ほど前、コロナで学校が臨時休校になったとき、地域の人が、休校になったら授業をしなくてよいから、学校の先生は楽だなと言っていた。そのくらいの理解しかなかった。

地域と学校はつながりがあり、ある意味では、学校は地域で育てようといったこともあるが、子どもたちが少なくなること、そのことで、子どもたちにデメリットもあるということを、地域の人にもっと理解してもらうことも大切だと思う。

いま玉野市にある24、5のコミュニティが集まる会もあるので、そういう場でも発信して、教育について、より理解を深めていただくことは必要だと思う。

委員 長：統廃合や適正規模の議論にかかわらず、教育に関心を持ち、理解を深めていく機会になるというのが、長期的に見たときも一番良いと思う。

地域説明会では、少なくなったらこう、だけではなく、今の玉野市の教育の現状や課題を含めて説明すると良いと思う。

委員 2：少し戻るが、委員6の話聞いてストンと入ってきた。子どもが減るから、仕方ないからどうしましょう、といった感じにしか受け取れなかったのは、市が、本当に子どもを、人を増やそうとしているかをセットで話をしていないからだと感じた。

人口を増やす取組をしているのであれば、もっとしっかりとアピールして、していないのであれば、もっと力を入れてほしいと感じた。

委員 長：その点に関して、こういう市を目指していて、そのためにこういう教育を目指しているとか、教育振興基本計画の中での位置づけであるとか、玉野市が力を入れてきた教育にはこういうものがあって、ここはもっと伸ばしていきたいとか補足はあるか。

まず私たちが、どんな玉野の教育をしていきたいのかということのイメージを考えられたら良いという思いもあるので、そのあたり、少し補足があれば。

教育 長：市長を中心として、色々な課で取り組んでいる。私どもは教育委員会なので、教育の面で、何とか子どもたちに良い環境を作っていこうと努力している。

教育次長：人口は40年くらい減り続けていて、ピーク時の8万人に対し今は5万6千人に減っている。生まれる数と亡くなる数が逆転して少なくなる。そういう自然減もある。そういった面で、玉野市に転入してほしいという思いは非常に強い。

例えば中学生までの子どもの医療費の無料化は玉野市が最初に実施した。子どもの関係については、非常に手厚くやっているという認識はあるが、情報発信できていないという反省点もあると思う。委員2の指摘にあったように、セットで伝えていくことは非常に重要と思うので、今後しっかりやっていきたい。

委員 長：教育で考えるべきことと、教育にとどまらないことがあるが、その良さを売り出して行って、玉野で子育てしたい人が増えていくようにできればと思う。

委員 1：例えばこうしていけばいいんじゃないとか、我々市民も声を上げるべきだと思う。ただ現状は、毎年減っていて、そこは考えていかなければならないと思う。今ある現状を踏まえて、玉野市の人口が増えたらいいよねというのは同時に考えて、玉野市民もどんどん発信して、アイデアを出しながら平行していった方がいいと思う。

委員 長：例えば、先ほど小中一貫校といったアイデアもあった。どこかを減らすのではなく、小中一貫にするとか、小規模だから来たという人がいるのであれば小規模の良さを思い切り生かして小規模の特認校のような形にして、地区を越えた入学を可能にするという発想もできないことはないと思う。

経費面で難しいことも出てくるかもしれないが、例えば地域のセンターと一体化した学校にして、地域の人も集えて子どもとも話ができてとか、地域の人の入り口もあるとか、食堂も地域の人も子どもも使えるとか、夢ばかりを言うわけではないが、そういった選択肢もあり得るので、その辺りも考えていただいてもいいのかなと思う。

委員 3：子育てには力を入れているとのことだが、まず夜間の病院がない。何かあったら岡山の労災や、日赤に走らなければならない現状がある。それから産院がない。子どもを産めない。母親からすれば、産める環境になれば育てる環境にないとなる。その辺りまで全部ひっくるめて考えてほしい。

総社などは子育て支援を大々的に言っているが、内容的に玉野もそう変わらないことをしてるんですよ。なのにそのアピールがないというか、そういう部分を感じてしまう。

委員 長：少し話が大きくなって、大事な視点と思うが、その辺りまで一体に充実させようと思うと、限られた予算や諸々をどこに選択集中して配分していくかということ

と不可分になってくるように思う。すべて欲しいのは間違いないが。

委員 9：私は子どもが中学校と小学校にいて、どちらも小規模だ。我が子を通じて小規模のデメリットを感じていて、今日はぜひ統廃合してほしいという気持ちで来たが、やはり地域とのつながりがすごく大きい。

委員7、委員8も言われたように、地域の人に助けられていて、朝の交通当番などをしていただいている。そういう繋がりがなくなってしまうのはすごく悲しいと思っていたが、先ほど委員長が言われたように、学校に地域の人が集える場所があるとか、そういう繋がりを切らさない仕掛けも一緒に考えながらできれば良いと思った。

あとスクールバスの話が出たが、例えば参観日とか、急に呼ばれたときとか、玉野市はすごく交通の便が悪いので、学校が遠くなっても、保護者も学校に行きやすい交通環境があると良いと思った。

委員長：なるほど、確かにそういう視点もある。子どものためだけではなくて、そこに付随する色々、確かに。

委員10：サンマリン認定こども園は、鉾立認定こども園の子どもたちが加わって地域的に大変広がった。東兎中学校区、山田中学校区、いろいろなお祭りをしていて、地域愛がものすごくあって、良さがたくさんある地域なので、そういったものを取り入れながら、保育に生かせたらと日々考えている。

いま、年長組が30人いる。30人いるとやはり活気がある。個性あふれる子どもたちは一人ひとり違うし、子ども同士学ぶ機会があると感じる。適正人数いると、日々の保育が充実するように感じる一方で、地域の良さを取り入れるには、広がるとちょっと難しいかなという部分も感じている。

多くのコミュニティがあって、たくさんの老人クラブの会の方がいてとなると、ここの地区と、ここの地区と、ここの地区と、という感じになってしまうので、上手く折り合いを付けながらやっていけたらと思う。

始まったばかりなので少し手探りで進めているが、基本に立ち返って子ども一人ひとりの成長を考えると、人との関わりというのは、将来に渡る大事なポイントになると思う。そう考えると、少人数よりある程度人数がいた方が、子どもたちにとって良いのではないかなと思う。保護者も様々意見を持たれていて、私自身もとても刺激になる。子どもたちのために、いろいろ取り入れて行けば良いと思う。

また、玉野市の魅力があれば来てくれるのではというのは本当にそのとおりで、保護者の中には玉野が良いと言って都会のから移り住んでいる人もいて、登園時に「とってもいいところですね」と声をかけられると嬉しい。それをもっとアピールして、他のところからも呼べたら良いと思う。

委員長：改めて、みなさんの見解としては、デメリットの部分の人間関係の難しさを克服しながら、適正な規模での人との関わりの中で多くを学んでほしいということが共通されつつ、広がった地域の部分をどう偏りなくとか、お祭りなどそれぞれの文化を大事にしてそこは残しながらということは、絶対に譲れない部分としてあると感じたところだ。

委員11：もう少し全体的なことと言うと、教育は何のためにするのか。教育の目標、目的

は何か。先ほど総社市の話も出たが、例えば大阪であれば大学まで無償化だ。そうなるともう、岡山市や倉敷市だけでなく競争相手がいて、どう玉野市の特長を出していくかが大事になってくると思う。

玉野市で教育を受けた子どもたちはどう育ったか。そこを最初に考えないと、話していることに意味がない。私から見ると、この40年の教育というのは、田舎の子どもたちを都会に送り出す教育だった。全部吸い取られた。自分の地域の子どもたちは、みんな東京や大阪や神戸や横浜に出て帰ってこない。老人ばかり残っている。その方が亡くなったらもう空き家だ。この教育の現実だ。

今まで大人たちが教育に失敗してきた。これから玉野市をどうしていくか、20年後の玉野市は教育が決めると私は思う。玉野市に住みたい、玉野市でやっていきたい、玉野市の仲間と一緒にやりたい、そういう子どもたちがどんどん出てくれば、玉野市はどんどん発展していくんじゃないかと思う。

まるで製造工場のように都会に送り出すのでは、今までの二の舞だと思う。それは、学校を統合したところで、何をしたところで、結局は都会に吸い取られて終わりということだ。私は、玉野市の教育が、どんな子どもたちを作るんだと、どうアピールできるか、それを最初に考えるべきではないかと思う。

委員長：私は学校に関わるときには、どういう教育を、またどんな制度をという前に、ここの学校ではどんな子どもを育てたいのか、どうしたいのかということは問うようにしている。

そういう点では、玉野市が何を大事にどうしていきたいのかというのは、事務局も言っていたように、子どものためにということもあったので、外してはいけない視点だなというところで、とても大事なことをいただいた。

では皆さん、じゃあ、玉野市をどういう子どもを育てていくのか、そのために必要な資源をどう配分していくことが必要かというところに戻っていくのかなあと。やはり現状のままでは、資源を考えても、資金を考えても、先細っていくというのは明らかなので、どこに集中していくかということをまあ、次回アンケートの結果が出てくると思うので、少し広く意見をいただいたうえで、少しまた具体的に詰めていきたいと思う。今日はとりあえず色々なご意見をいただくということだったので、皆さんにご協力いただいて、いろいろな話を聞いたのかなと思う。

## (2) 今後のスケジュール

事務局：今後の会議日程、地域説明会、アンケートについて説明。

委員 2：説明会で話を聞いて、そこで理解をしてアンケートに答えるイメージか。

事務局：保護者には児童生徒を通じて1学期中にアンケート用紙を配布する。9月末が回答の締切なので、その間に説明会に参加いただいたり、資料をご覧いただいたりなどして、理解を深めたうえでご回答いただければありがたい。

委員 2：荘内の説明会がギリギリだが大丈夫か。9月末締切で説明会が9月30日というのはどうなのかなと思う。

自分はPTA会長をしている。研修や会議がとても多くて、役員に割り振りをしているが、プリントの案内を配っても、ラインで知らせても、それすら読んでもよく分からない人が多いので、説明会でしっかり説明を聞いてからアンケート

という形の方が、反映されるのかなと思う。

委員 5：荘内はある程度しか来ないのかなというのは、これまでいろいろな説明会に参加して見て感じるころではある。

事務局：資料でお示ししているとおり、質問自体はさほど難しいものではないが、自由回答のところは、ある程度理解を深めたうえで回答いただきたい部分なので、そこも踏まえて締切日は考え直したい。

委員 3：説明会の案内は地域住民や保護者に出しているか。学校から手紙が出る予定はないか。

事務局：広報たまの日に日程を掲載している。説明会については、児童生徒を通じて案内を配ることは予定していない。

委員長：広報たまの日に掲載するのは結構有効な手段か。

各委員：見ていないと思う。

委員 3：フェイスブックなども、どこまで見ているのかと思ってしまう。せめて学校から手紙でもないと、保護者はスルーするのではないかと思う。

委員 5：アンケートに「答えるときに不安な方はご参加ください」とか書いてくればよい。

委員 3：「説明会がある」のようなものが何かほしい。広報紙は全部見るかということ正直見ない。子どもたちのことは一番考えないといけないことで、保護者には何か説明がほしいかなと思う。一般の保護者はこういう話が出ていることも知らないと思うので、お知らせなりがあると嬉しい。

事務局：アンケートに期日を加えたい。

委員長：保護者用はアンケートに加えて子どもから、地域の方は広報たまの、あとはPTAの中でもお声がけをしていただきながら。

委員 2：地域説明会は事前申込が必要か。どこに申し込めばいいか。

事務局：広報紙には申込先として教育総務課の電話番号を掲載している。

委員 2：申込をしていなくても入れるか。

事務局：入れるが、コロナ禍でもあるので来場者の管理のためにも事前申込をお願いしている。

委員長：アンケートはできあがってしまっているので手を付ける気になりにくいですが、できれば「玉野市の教育としてこういうことを大事にしてほしい」といことが聞けてもいいなと思う。

「どれくらいの距離だったら通えるか」などは、現実的に決定していく際の大事な情報になることは間違いないが、「こういう教育は大事だ」とか、「人間関係が固定化する苦しさは避けたい」とか、「人間関係のゴタゴタがすごく気になる」とか、あるいは「地域に戻ってくるような、地域を大事にするような子どもは絶対育てたい」とか、そういうことも含めた保護者や地域の方の意向も知れたらいいと個人的には思う。

どういう教育を望んでいるかとか、どこに問題を感じているかとか、そこを克服できるような新しい学校づくりということも、計画に少し盛り込めるような形にできたらいいのかなと思う。

委員長：最後に、これまでの説明や各委員のご意見等踏まえて何かあれば。普段思っていることでもかまわない。



委員 2：今回の話を聞いたときは悶々とする部分が大きかったが、皆さんの前向きな考え方とか、こういうふうを考えていかなければという話を聞いて、少し安心した部分が大きかった。

そういったものを保護者の皆さんに感じていただきたいので、説明を積極的に聞いてもらえるような環境にしてもらえたら、もっといい話し合いができるかなと思った。

委員長：今後も会は続いていくので、またご発言いただけたらと思う。

## 7 閉会